

平成28年11月28日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

GL、今後の更なる大きな飛躍への布石

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、現況及び今後の展望について、本日プレスリリースを公表いたしましたので、その内容を日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

2016 年11月28日

件名：GL、今後の更なる大きな飛躍への布石

タイ証券取引所上場企業でデジタルファイナンス事業を手掛けるGroup Lease Public Company Limited (GL) は、ここ数か月における積極的かつ連続的なM&Aを終え、経営陣はそれらの案件について“今後の更なる大きな飛躍”への布石であると表現する。

タイ、カンボジア、ラオスにおける既存事業の好調を背景に、GLは、アセアン最大規模の市場であるインドネシアにおいて事業を開始、スリランカ及びミャンマーにおいて複数の買収を実行、今後の更なる大きな飛躍に繋がる手を次々と打ち出した。

GL 執行役員会会長である此下竜矢氏によると、この大規模な事業拡大の局面によりGLは、タイベースの単なるオートバイリースの会社から、アジア及びそれ以上の国々において25億人の草の根階層の人々に対して様々なファイナンスサービスを提供するという大きな使命を持ったグローバルデジタルファイナンス企業へと転換を図る。

この大規模な事業拡大における重要な目標は、GLの時価総額を拡大させることにある。現在約20億米ドルの時価総額を今後3年間で100億米ドルまでの拡大を目指していく。

都市部や市街地の顧客をターゲットとしている競合他社のファイナンス会社と異なり、我々のターゲットは、銀行や他のファイナンス機関とは無縁の郊外に住む人たちが大多数である。我々の提供するサービスにより彼らは自分たちの仕事を大きくさせ、生活の質を向上させることができると

此下氏は述べる。

これからの大規模な事業拡大は、進出したエリアに広がる巨大なエージェント／ディーラー網により可能になっていく。その販売ネットワークには、ミャンマーの約22,000店舗の販売店舗、スリランカの約22,000にも及ぶサービスユニット、カンボジアにおける提携先True Moneyディーラー約5,000と自社エージェント約1,000に加え、GL自社PoS（セールス拠点）タイ約600、ラオスとインドネシアそれぞれ約300がそれに含まれる。

今後我々の事業拡大における戦略的な鍵は、エージェント／ディーラーネットワークにある。ディーラーが直接顧客にアプローチをし、そのディーラーにGLがDigital Finance Platformを提供することによりGLは、ITのアプリのように次々とセールスネットワークを拡大することができる。昨年末時点ではエージェント／ディーラー数で約1,000であったが、ここに来て一気に50,000以上に跳ね上がった。更にそれに合わせて潜在顧客数も現在の20万から、遠くない将来におよそ100倍の2,000万まで広がっていくだろう。我々は唯一無二の“Digital Finance Company”であり、IT企業として速く拡大することができ、ファイナンス企業として収益を得ることができると此下氏は加える。

次の3年間における大きな飛躍は、これまでの驚異的な業績の成長に続いていく。GLの際立った直近の業績により、タイ証券市場のファイナンス部門においてもトップクラスと位置付けされている。

GLの第3四半期の純利益は260.41百万タイバーツとなり、8四半期連続で最高益を記録し、今期第3四半期までの累計の純利益は738百万タイバーツとなっている。GL経営陣は、今期初めに今期通期の利益を昨年約6億タイバーツの約2倍にあたる10億タイバーツを目標としてきたが、その目標達成に自信を見せている。

これまでの既存事業の成長に加え、コロンボ証券取引所上場の高収益ファイナンス会社 Commercial Credit & Finance Plc (CCF)の株式29.99%取得により、第4四半期から持ち分利益の取り込みが開始され、更に利益が増加する。

今後、既存事業の成長に加え、直近行った買収会社からの貢献が始まることからGLの経営陣は来期の利益見込みを今期の10億タイバーツの2倍にあたる20億タイバーツを期待する。

2017年における確実な新しい収益源として、CCF株式29.99%の保有持ち分利益がある。CCFは今期22百万米ドルの利益を見込んでおり、来期は30百万米ドルの利益を見込んでいる。大まかに言えば、そのうち1/3の利益を取り込むことができる。

直近行ったミャンマーへの進出もまた来期に非常に大きな利益貢献が始まると期待する。GLは、現在好景気に沸くミャンマーにおいてマイクロファイナンス会社であるBG Microfinance Myanmar Co., Ltd (BGMM)を100%子会社化した。また、ミャンマーの大物実業家であるAung Moe Kyaw氏及び同氏の関連企業群 (AMK consortium) と戦略的提携を結び、マイクロファイナンス以外のファイナンスサービスの提供を進めていく。

Aung Moe Kyaw氏はミャンマー中央銀行からライセンスを受けたファイナンス会社、Century Financeのオーナーであり、ミャンマー最大のアルコール製造販売会社であるMyanmar Distillery Company Limitedの会長である。

AMK consortiumとの提携は非常に重要である、なぜならミャンマー全土に存在する約22,000店の販売ネットワークは、そのままGLの顧客になり、更にGLのエージェントとなり国中の顧客に販売活動を行うからだ、と此下氏は述べる。

一方、2016年7月25日に事業を開始したGL Finance Indonesia (GLFI)は、第3四半期におい

て小さいがすでに利益を計上した。これは非常に素晴らしいことだ、通常ファイナンス企業は、利益に転じるのに数年かかると此下氏は言う。極めて大きな規模であるインドネシア市場、人口約2.5億以上でありインドネシア事業からの利益は、2018年にはタイ事業とカンボジア事業との合計よりも大きくなると期待する。

インドネシア事業における短期間での利益化はGLによって独自に開発、ローン申込、承認から顧客からの支払、送金までの一連のプロセスをスピーディ化した高収益ビジネスモデル“Digital Finance Platform”により実現された。

第3四半期の純利益260.41百万タイバーツの利益の概算内訳としては、タイ事業約100百万タイバーツ、カンボジア事業約130百万タイバーツ、タイ子会社Thanabun Co., Ltd約15百万タイバーツ、ラオス事業（GLL）約15百万タイバーツとなった。

タイ事業は、他の海外事業の極めて速い成長に比べればゆっくりではあるがこれからも成長すると此下氏は言う。グループ全体の利益に対するタイ事業の貢献は、今期の40%から来期には20%にまで減少し、以降は更に減少していく。

大規模な事業拡大に向けて更なる資金調達を行うべく、先日GL取締役会は、私募による総額70百万米ドルの新規転換社債の発行（インドネシアにおける戦略的パートナーであるJTrust Asia Pte. Ltd.（JTA）に50百万米ドル、スリランカの関連企業Creation Investments Sri Lanka（Creation SL）に20百万米ドルの発行）を決定した。これらの転換社債は、3年満期、転換価格一株当たり70タイバーツとなっている。JTAは、2016年5月にも総額130百万米ドルの転換社債を引き受けており、転換価格一株あたり40タイバーツにて株式転換を行っている。

以 上